

子どもの喜ぶ造形遊び (1)

—いくつかの新提案—

木俣 創志

1. はじめに

私の両親が運営していた美術教室には、未就学の子どもを対象にした幼稚部があり、日曜日を除くほぼ毎日2時間、様々な造形遊び・絵画製作などが行なわれていました。教室では、お正月にはゲーム大会、夏にはキャンプ、秋には河原で芋煮会…などといったイベントも開催され、そんな雰囲気の中、私自身も長年にわたって「かく・つくる」を楽しむ機会に恵まれました。

この経験は、作家としてのみならず、のちに自身が担当することとなった子ども対象の造形教室や数多くの公開講座、そして大学での美術指導 —とくに幼児教育を志望する学生さんへの造形指導— など、現在のほとんどすべての私の仕事にとって貴重な財産となっています。当時の経験がこうした活きた宝になろうとは夢にも思っていませんでしたが、この時代があればこそ、ことさら教科書に頼らず自ら工夫してつくり出す授業のベースとなったのではないかと振り返ることがあります。

これまで25年以上にわたる幼児教育課程の造形授業を通じて、スパッタリング(霧吹き絵)やマーブリング(水面プリント)、デカルコマニー(絵の具はさみ絵)など等といった、一般にも広く定番となっている子どもの造形遊びを踏まえながら、なおかつ様々な創作的遊びを学生さんとともに試行錯誤しながら考案・発信することができたのも、そんな自身の来し方によるのかな、と感慨を感じるこの頃です。

この小論ではそうした経験を踏まえ、未だ知られずこのまま埋もれさせては何とも「もったいない」と感じる造形遊びや、学生さんのアイデアに私が改良を加えた課題、そして、自身で考案した造形テーマなどを紹介していきます。

私の幼少時代における造形活動と、子どもたちへの指導、そして幼児教育を志望する学生さんへの指導。ひとりの作家が夢中で通過してきたこれらの諸経験が、ひとつに合わさって生まれた「新しい造形遊び」の提案です。

今回は2つを紹介します。毎回の紹介から、広く定番となるものが出現すれば嬉しい限りですが、まずは楽しんでお試しいただければ幸いです。

2. すき間テープのソフトクリーム

【年齢】2歳～4歳

【季節】とくに夏がおすすめ

【用意するもの】すき間テープ、紙コップ、はさみ、セロハンテープ

【作り方】

すき間テープのシールを剥がして糊の面を出しながら、ソフトクリームのように渦巻状に巻いていきます。太さが、紙コップの入り口より少し大きいくらいになったら、はさみでカットします。

すき間テープの最後をセロハンテープでとめます。これを紙コップに入れ、ハイ、美味しいようなソフトクリームのでき上がり！



用意するもの



すき間テープを渦巻状に巻いていく



はさみで切る



セロハンテープでとめる



紙コップに入れる



ソフトクリームのでき上がり

【展開のヒント】

カタツムリやへびさん、地底探検車（別の機会に紹介します）、バベルの塔、そして子どもたちの大好きな〇〇〇なども、同様の方法で簡単につくれます。

カタツムリは、下の写真のようにすき間テープのみで仕上げると、なかなか味があります。この場合の対象年齢は、なくてもよいかもしれません。

また、紙皿を中央から2つに折ってカタツムリの胴体をつくり、すき間テープでつくった殻をくっつけても、可愛いカタツムリができます。

【遊び方など】

支援者が、便器をダンボールでつくってもよいでしょう！例えば、「これが人の体を通ところなるのだ!!」などと叫びながら、ソフトクリームの紙コップから渦巻き状のすき間テープを取り出して、つくった便器に移しても楽しいですね。大喜びすることまちがいないです。



カタツムリの親子



子どもを連れのお母さんカタツムリ…どこへ行くの？



獲物をねらうへびさん



凝視するへびさん



キングコブラ



バベルの塔

3.速乾！立体絵の具のお絵かき

【年齢】3歳～9歳、盲児にもおすすめ

【季節】通年

【用意するもの】ライトモデリングペースト（＝モデリングペースト・ライト）、絵の具、ジッパー付き袋、霧吹き、へら、はさみ、色画用紙

【作り方・遊び方など】



ライトモデリングペーストと少量の絵の具をジッパー付き袋に入れ、霧吹きで水をスプレーします。ジッパーをしっかりと閉じ、料理するように、中身をよく揉んで混ぜ合わせます。パステルカラー調の美しい絵の具ができます。これを立体絵の具と呼んでいます。

ジッパー付き袋の隅の一箇所をはさみでカットすれば、さあ、立体お絵かきのスタートです。

袋を軽く握ると、絵の具が線になって飛び出します。通常の絵の具よりも、乾燥がとても速いのが特徴です。

白い画用紙に描いてもいいのですが、絵の具がパステルカラー調なので、やや濃いめの色画用紙にお絵かきすると美しく仕上がります。

絵の具の厚さにもよりますが、立体絵の具は、速ければ数時間で、翌日にはすっかり乾燥します。

【立体絵の具づくりのコツ】

立体絵の具をつくる際、混ぜるライトモデリングペーストの分量を多くすれば色が淡くなり、少なくすれば色が濃くなります。水をスプレーするのは、立体絵の具の柔らかさを調整するためです。子どもと一緒により好みの絵の具づくりを楽しんで下さい。

バットの上で、へらなどを使って混ぜ合わせても楽しいですが、袋の中で混ぜ合わせれば手や用具が汚れず、また、用具の洗浄も最小限で済ませることができます。排水を汚さず、環境にやさしいというメリットもあります。

袋のカットは、穴から飛び出る立体絵の具の太さを試しながら、袋の隅を少しずつ慎重にカットしていくのがコツです。

ライトモデリングペーストは、画材店で入手できます。もともと絵を描くための下地剤ですが、ホイップクリームのようなふんわり感があり、いろいろ転用のできる楽しい素材です。メーカーによっては、モデリングペースト・ライトという名で売られています。

普通の（ライトでない）モデリングペーストで立体絵の具をつくと、硬化した絵の具が尖って痛くなることがありますが、ライトモデリングペーストなら手触りがソフトなので、子どもにも盲児にも安心です。



用意するもの



ジッパー付き袋の縁を外にめくって投入する



霧吹きで適度に水を加える



絵の具を投入してジッパーをしっかり閉じる



中身をよく揉む



いくつかの色をつかっておく



袋の隅の一箇所をはさみで切る



軽く握るだけで美しい立体絵の具が飛び出す

【握る力の弱い子どもには】

握力の弱い年少さん(3~4歳児)などには、柔らかめの立体絵の具がよいでしょう。絵の具づくりの際、水を多めにスプレーして立体絵の具を柔らかくします。水は多めでも、少しずつスプレーするのがコツです。

【展開のヒント・配慮】

立体絵の具は固着力が強いので、ダンボールや木の板などに描いて、ネームプレート製作などにも応用できるでしょう。

パウチ入りのライトモデリングペーストのキャップを外して、スポイトボトルの先端を装着すると、雪のような美しい白色の立体絵の具としてお絵かきできます。

また、ケーキ用の搾り出しセットにライトモデリングペーストを詰めれば、ケーキ屋さん遊びなどもできます。

立体絵の具が乾いたら、盲児は自分の描いた絵を触覚によって確認することができます。

袋の穴の大きさが異なるものを何種類か用意しておく —例えば、グリーンは太く、赤は細く、ブルーは中くらいの太さ…など— 盲児は乾燥後の線の太さによって、色の違いを触覚で感じとることができます。また、立体絵の具にナチュラルサンドやレジンスンド、セラミックスタッコなどの補助剤を混ぜるなどして、乾燥後のテクスチャー(手触り感)に変化を持たせれば、さらに表現に幅が生まれるかもしれません。描く際は、そばでサポートしましょう。

(ドライヤーで熱を加えて)膨らむタイプの絵の具、(色のついた接着剤を詰めた)グルーガン、また、パオゲルなどでも同様のお絵かき遊びができますが、安全面でやや心配があります。ここで紹介したライトモデリングペーストによる立体絵の具は、熱を使うプロセスや強い臭いがなく、また、絵の具づくりが楽しくラクにできるのが特徴で、年少さんも盲児も、安心して取り組みます。

ちなみに、絵の具をスポイトボトルなどによって行なう描画は、実際に私自身が学生時代に絵画制作で行っていた手法です。力強くシャープな線を欲しての策でした。



パウチ入りのライトモデリングペーストにスポイトボトルの先端を装着



雪のような美しい白色の立体絵の具
乾燥後に彩色もできる



太い絵の具でも翌日にはしっかり乾燥している



立体絵画のでき上がり！

担当する絵画サークルなどでも紹介し、大変好評でした。スポイトボトル・ペインティングという名のもとに、一般向け絵画技法のひとつとしていずれ紹介できたらと考えていましたが、子ども向けの紹介が先となりました。

大人の絵画制作ではアクリル絵の具や油絵の具で行ないますが、子どもの場合は、ライトモデリングペーストを混ぜ込んで絵の具をつくるのがポイントです。

4. むすびに

今回は、こと始めとして、私自身で考案した造形遊びの紹介となりました。

コロナ禍の渦中、親子で在宅を余儀なくされている皆さん、どこにでもある素材で簡単手軽につくれる造形を通して、作品だけでなく、お子さんと楽しい思い出をつくりましょう。引き出しの奥にしまい込んだ端材や、使い古しの絵の具などを利用し、ぜひ童心にかえてひとときをお過ごし下さい。

私はこうしたアイデアを、子どもに変身してワクワクしながら考えます。先ほども述べたことですが、ゆえに実際の対象年齢は、2歳～制限なし(高齢の方々)でもよいのかもしれない。

実際、私は5年間にわたり「介護レクリエーション(造形の活用)」という授業を大学で担当したことがあります。介護士を志望する学生さんのための造形指導でしたが、当時は未開拓の分野で、手探りの状態が続きました。現在でも状況はほぼ同様であり、今後のさらなる発展と充実が望まれます。ここに紹介した造形は子どもばかりでなく、ぜひ、介護レクの現場にも応用していただければと思っています。

この小論は、美術や美術教育の専門家ばかりでなく、保育士さんや親御さんといった支援者の皆さんにも読んでいただけるよう、専門用語をなるべく廃し、そして幼児教育を学んでいる学生さんには、授業と同様の、柔らかい頭脳で様々な展開ができるような

—“初めにつくり方・遊び方ありき”でない— 説明を心がけました。

なお、「3. 速乾！立体絵の具のお絵かき」における盲児の描画については、佐藤直子さん(筑波大学附属視覚特別支援学校 図画工作科教諭)より、専門家の立場から貴重な助言をいただきました。厚く御礼申し上げます。ぜひ、盲児の親御さん、そして盲学校などでもお試しください。

拙論の内容をヒントにした新しい展開の方法や遊び方の工夫など、皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい。お待ちしております。(私のHP『木俣創志 作品集』よりお入り下さい。)



学生時代に絵画制作に使用した
様々なスポイトボトル
現在でも使うことがある

画家
美術研究家
静岡英和学院大学 昭和女子大学
非常勤講師(美術・造形)